

# 同志社大学

## 2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 20日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部・総合政策 科学研究科	教授	新川 達郎
研 究 題 目	メタ・ガバナンスの機能と組織構造に関する理論的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は、「ガバナンスのガバナンス」とも言われる「メタ・ガバナンス」状況について、その理論枠組みを明らかにし、将来の実証研究と応用研究の基礎とすることを、目的としている。この研究によって、従来のガバナンス論における「失われた輪」を補完することに最終的な目的がある。そのために、ガバナンス論の先行研究と現地調査を基に、メタ・ガバナンスの機能と組織を明らかにし、体系的なメタ・ガバナンスの動的モデルを理論構築することとした。</p> <p>2009年度は、実証的な研究と理論研究を並行して行い、実態との照応の中で、改めて概念整理をする基礎を構築してきた。具体的には、都市あるいは地域におけるガバナンスの変化の中に見られるメタ・ガバナンスの機能状況を明らかにし、事例としては、近年その市政改革が大きく進んだとされる愛知県豊田市、大阪府大阪市のケースを取り上げた。</p> <p>行財政改革や政治改革などが進行する中で、都市のガバナンスは大きく変化しており、その変化の中に市民社会と地方政府、あるいはNPO・市民活動組織と各行政機関との関係変化を再構築するネットワークが機能しているように見える。こうした都市におけるメタ・ガバナンスの変容が明らかになった。</p> <p>一方理論的な研究としては、研究会および資料収集を行った。2009年度の研究会の報告からは、ガバナンスとメタ・ガバナンスの変容について重要な示唆が与えられた。それらの成果の一部は、下記の論文及び学会において報告することができた。</p> <p>単著 新川達郎 「ガバナンス時代」の地方政府改革——協働型ガバナンスからの展望 「月刊 ガバナンス」100号 2009年8月号 13—16ページ</p> <p>単著 新川達郎 地方自治体のガバナンス —協治と自己統治の都市社会計画へ— 『都市社会計画の思想と展開 —アーバンソーシャルプランニングを考える』 橋本和孝・藤田弘夫・吉原直樹 編 2009.10刊、所収 95—121ページ 所収学会発表</p> <p>The Annual Conference of International Association of School and Institute of Administration 2009 in Rio de Janeiro of Brazil (3rd Aug. to 7th Aug.)</p> <p>The “Module” Model of the Public Personnel Training, in the Governance Era By Tatsuro Niikawa</p>	